

Minami Kyushu University Syllabus							
シラバス年度	2021	開講キャンパス	宮崎キャンパス	開設学科	健康栄養学部		
科目名称 [英語名称]	中学校教育実習 [Practice Teaching]			実務経験 教員担当	○	アクティブ ラーニング	○
科目コード	421180	授業形態	実習	単位数	4	配当学年	4年次
教員氏名	岩田 賢士			学位授与の方針 との関連	DP1(1)(2)・2(1)・3(1)(4)		
授業概要	<p>教育実習は、教育者に求められる実践的な能力や倫理性の基礎訓練を、それにふさわしい学校現場という現実の環境で実施するものである。その、教育実習の目的は、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学校教育の実際について、体験的、総合的な認識を得ること。 2. 大学において修得した教科や教職に関する専門的な知識、理解や理論、技術を児童・生徒等の成長発達の促進に適用する実践的能力の基礎を形成すること。 3. 教育実践に関する問題解決や創意工夫に必要な研究的な態度と能力の基礎を形成すること。 4. 教育者としての愛情と使命感を深め、自己の教員としての能力や適性に自覚を得させること <p>であり、これらの目的を達成するために数週間に亘り各学校現場において実践するものである。上記の内容を35年間培った教員生活の経験を生かし指導する。</p>						
関連する科目	中等教科教育法(農業・理科)・特別活動論等教職科目・学科の専門科目・各教養科目等大学で学んだ学習を活用して教育実習を受けることになる。						
授業の進め方と方法	<p>○実施校訪問 ○研究授業の参観 ○基本的には教育実習受け入れ校に依頼する。 ※学生は、教育実習校の指導に従い、努めて自分から積極的に教育活動に参加する。それは、ホームルーム指導・教科指導・学校行事への参加・部活動への参加等であり、指導教員並びに生徒とのコミュニケーションを図ることに心掛ける。</p>						
授業計画	<p>○学校の概要を知る。 各講話・校長・教頭・教務主任・生徒指導主事・進路指導主事・保健主事等</p> <p>○教科・科目指導</p> <ol style="list-style-type: none"> ①概要説明: 学年主任・教科担当者 ②学習指導案の作成 ③授業実践と反省 ④研究授業 <p>○クラス経営</p> <ol style="list-style-type: none"> ①クラス経営とは・クラス担任による説明・指導 ②SHRの実践 ③学級日誌の書き方 ④LHRの計画と実践 <p>○道徳教育の実践</p> <ol style="list-style-type: none"> ①概要説明: 担任等 ②指導案作成 ③実践と反省 <p>○部活動の指導</p> <p>○学校行事への参加</p> <p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習指導と生徒指導 ・放課後の過ごし方 ・教師としての倫理観の醸成 <p>○教育実習記録簿作成(実施内容の記録と評価・反省)</p>						
授業の到達目標	<p>教育実習は、将来の教育者として必要な資質を実践を通して育成するもので、必要な資質とは、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門的な知識と技術 ・高い倫理観と情熱 ・学び続ける意欲と児童生徒に対する愛情 ・コミュニケーション能力と強い意思 <p>などであり、これらを身に付けること。</p>						
授業時間外の学修	<ul style="list-style-type: none"> ・教育実習は、大学を離れ各中学校・高等学校で行われることを念頭に置き、あらかじめ実施校の概要を調べておく。 ・教育実習は、単に大学で学んだ専門的な知識や技術だけでなく、今まで自分自身が小学校から現在に至るまでに培ったものを総動員してことにあたるため、それらをしっかりと整理しておく。 ・教員には高い倫理観や法令遵守が求められる。故に、日頃からそれらを意識した生活をするように心掛ける。 ・大学生生活と違い勤務時間に厳しいので、基本的な生活習慣を身に付けておくこと。 ・実習校と連携を図り連絡調整する。以上の取組に、140時間程度の時間外学修を行うこと。 ・教育実習中の取組として、100時間程度の時間外学修を行うこと。 						
課題に対する フィードバック	○実習日誌の点検 ○実習体験発表会の実施 ○教育実習校訪問の実施			評価方法	○受け入れ高校・中学校校評価○受け入れ高校評価に加え教育実習記録簿等の総合的評価		
テキスト	○実習日誌						
参考書	○「教育実習総説」学文社 池田稔・酒井豊ら○「教育実習ハンドブック」学文社 柴田義松・木内剛編著						
備考							